


議 長	副議長	局 長	次 長	主 幹	係 長	係 員


行政視察報告書


平成28年7月27日


笠岡市議会議長 殿


(出張者) 徳清会


議員 栗 尾 順 三 

議員 馬 越 裕 正 

議員 仁 科 文 秀 

議員 森 岡 聰 子 

議員 東 川 三 郎 

議員 大 山 盛 久 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

行程

7月11日 移動

7月12日 留萌市「健康の駅（健康を軸としたまちづくり）」について

7月13日 小樽市「小樽市立病院の統合・運営」について

【1】北海道留萌市

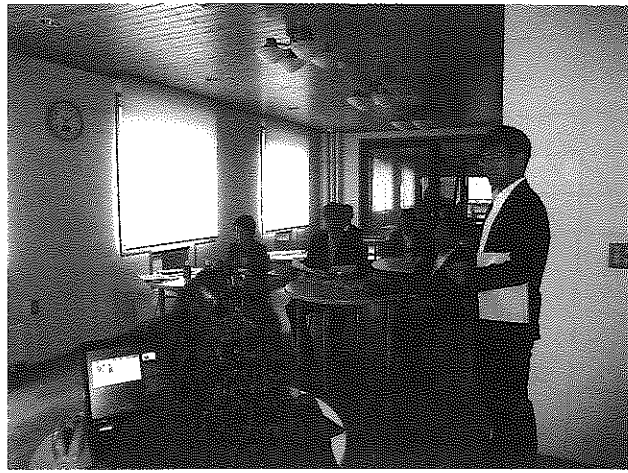
住 所	留萌市花園町3丁目1-1
電 話	0164-43-8121
視察案件	健康の駅（健康を軸としたまちづくり）
期 日	平成28年7月12日（9時30分～11時20分）
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	るもい健康の駅（NPO法人 るもいコホートピア）について
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ●供用開始・・・平成21年7月11日（全国に19ある健康の駅の一つ、岡山県では岡山市の旭東病院が健康の駅の一つ。） ●設置目的・・・市民が主体的に実施する健康づくり活動を支援し健康に対する意識向上を図るとともに健康増進に向けた予防医学の実践拠点とする。

	<p>●NPO 法人の理事長は、札幌医科大学の教授であり、理事としても旭川医科大学の学長や留萌市立病院の名誉院長などが名を連ねている。</p> <p>●こうした大学のコホートピアでは、医学研究を住民とともにこない、住民の健康と医学への貢献を目指し、笑顔で元気な健康のまちづくり、保健・医療・福祉の充実と経済の活性化を進めるとしている。たとえば、目のコホート研究事業では、旭川医科大とともに、40歳以上を対象に、無料の目の健診、身体測定、生活習慣病アンケートを実施し、目の健康アドバイスをおこなっている。5年間続けてきている。</p> <p>●また、高齢者の見守りを支えるために、独居の高齢者の無料健康診断も実施し、一人暮らし全員の調査をおこなっている。そのほか、寒い地域で塩分をたくさん摂る人が多く、腎機能の調査などをおこなっている。よろず健康相談も実施している。</p> <p>●建物内は、運動のできる器具や簡単に健康チェックができる医療器具があり、とても便利。利用者は中高年が多いとのことであるが、笠岡市でも、とくに骨密度や血液の循環、筋肉量などが容易に気軽に立ち寄れて測定できる場所があると思う。</p> <p>●年間約2000万円のNPO法人の指定管理料で、事業が展開されている。利用者は年間15000人程度で微増。</p> <p>●最後に、平均寿命や健康寿命にいい影響があるかと質問したところ、市民の健康に対する意識は高まっているが、平均寿命や健康寿命の延伸に十分な効果が出ているとは言えないとのこと、少し残念だった。</p> <p>●別の話 経営がきびしい留萌市立病院の経営改善のために市がとった政策。 市長の給与30%削減、市職員給与20%削減。議会では、常任委員会の視察なし、政務活動費なし、平成28年度になってやっと再開。 市民には軽自動車税を7000円から10000円に上げるなど、税金の負担増をお願いしたとのこと。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

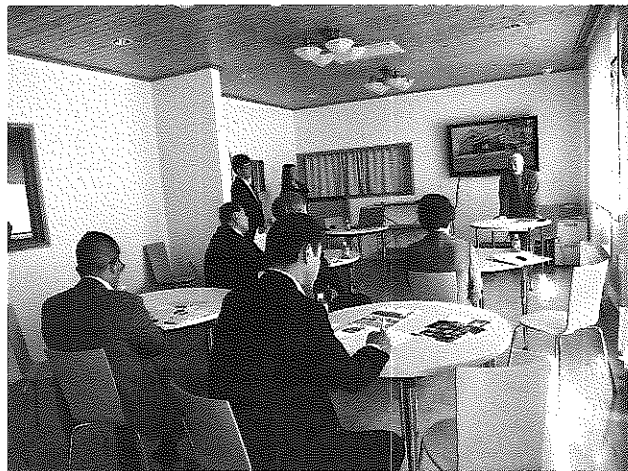
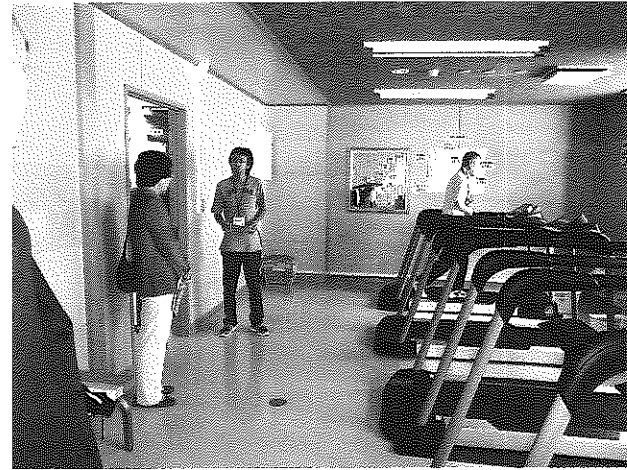
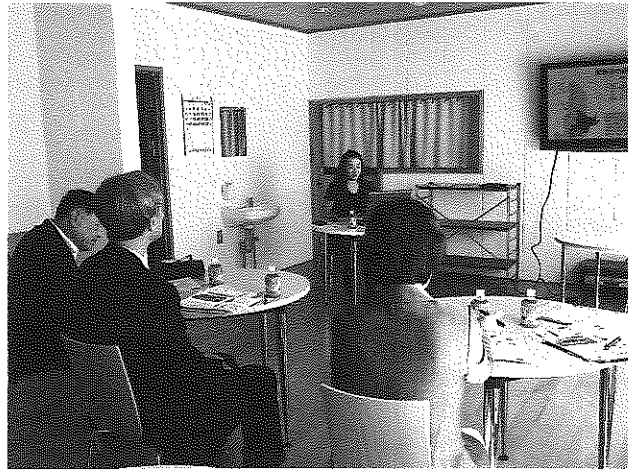
【2】北海道小樽市

住 所	小樽市若松1丁目1番1号
電 話	0134-25-1211
視察案件	小樽市立病院の統合・運営について
期 日	平成28年7月13日(9時30分～11時10分)
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	小樽市立病院
概 要	●従来、小樽市内には、2つの市民病院があったが、いずれも老朽化が進み

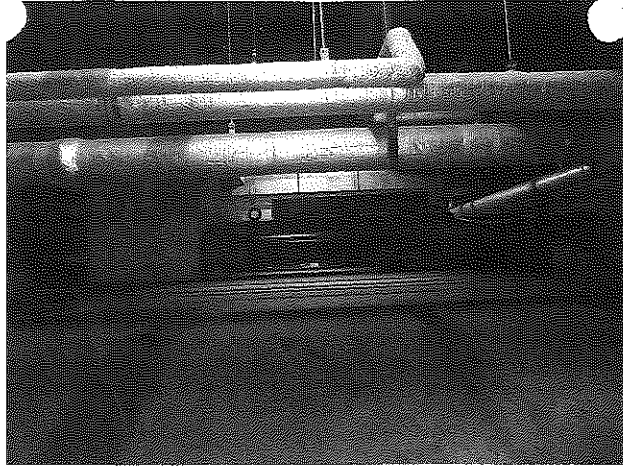
	<p>市民にとっても効率が悪く経営状況も厳しいため、統合新築することになった。他の医療機関との連携・役割分担を進め、病床数も削減しコンパクトに。しかし、高機能な基幹病院として、質の高い医療をおこなうために PET-CT リニアック、ハイブリッド手術室を整備。札幌市は近いが、行政区が違うため、この小樽・後志の地域医療は、自分のところで果たす（地域完結型）という意気込みが感じられた。21 診療科、救急は 24 時間、365 日対応。開院 1 年半で患者も次第に増えている。病床数は 445 床から 388 床に。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口 12.2 万人のまちと周辺市町にあって、私が不思議に思ったのは、すぐそばに 240 床の小樽協会病院があり、そのほかにも計 396 床の総合病院が 2 つあるが、連携・役割分担ができていたためか、競合の説明がでなかったこと。いずれも急性期病院というが協力体制がある程度はできているようだ。 ●新病院は、市内のほぼ中心部にある旧小学校跡地に建てられており、総工費 138 億 5 千万円、財源は多くは起債、ほかに北海道交付金、一般財源など。動きが早かったのは、平成 19 年に市民病院の建て替えを決めてからすぐに病院事業管理者を迎えていること。笠岡では、今だに病院事業管理者は院長が兼任であり、新病院の建て替え、存続に専門性が生かせていない。 ●視察当日は、建物、施設内部を詳しく見せていただいた。地下の免震構造や進んだ医療器具のほかに、手術中の画像も遠隔でモニターで見ることができた。
添付書類	視察資料、視察状況写真、名刺



く留萌健康の駅



屋上バルコニー



地下免震構造

〈小樽市立病院〉

病院玄関前で

